慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	米価調節策の上に現はれたる農政上の一疑義
Sub Title	
Author	気賀, 勘重
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1915
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.9, No.3 (1915. 3) ,p.283(61)- 310(88)
JaLC DOI	10.14991/001.19150301-0061
Abstract	
Notes	論説
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19150301-0061

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

行せられ、而して其一半が年内に拂込まれたるの結果とす可く、一方に諸外國に對する放資の減少は同年第四々小半季に於て、外國に對する放資の事實不可能と爲れるの結果に歸す可し。英國の將來に於ける對外放資の狀況を考量するに、(第一)戰爭に伴う資本の破壞、破壞せられたる資本復舊の必要幷に内國に於ける資金需要の增加は相重なりて、對外放資を制限す可く、(第二)斯く制限せらるゝ對外放資は更に政府の資本輸出に對する認可權の運用に依て、自ら或る方嚮に左右せらる可く、(第三)英佛露三國の財政同盟、戰後に亘つて、其效力を持續せんか、斯く制限せられたる範圍内に於て、行はるゝ英國の對外放資をして、專ら佛露兩國に向はしむるものと認めざる可からず。又假に財政同盟の效力、戰時に限らるゝとするも、其有效期間内に於て、英國が他國の公債を吸引すること多きに隨て、自ら英國の對外債權を增加して、他の方面に於ける對外債權の減少を補ひ、依て以て英國が世界の債權國たり、國際金融上の覇者たるの地位を保全するの效果を及ぼすに至る可し。然も今日に於て、是等の問題に充分の解決を下さんとするも、事多く將來の豫想に止まりて之を爲す能はず。姑く他日に於ける事件の發展を待たんのみ。

米價調節策の上に現はれたる農政上の一疑議

氣賀勘重

（一）

昨大正三年の春期以來漸落の傾向を示し來れる米價の大勢が、中途突發せる歐洲大亂の影響を受けて一時其進行を停止せられたるの觀ありしに拘らず、秋收豐作の事實漸く明瞭となるに從ひ再び其勢を加へて遂に九月以降に於ける大下落を致すに及び農家窮迫の聲は一齊に高まり來れり。而して此嘆聲は左なきだに既に沈滯せる經濟界が戰爭突發の爲に更に蒙れる一般の大打擊と相待ちて益〻不景氣の聲を大ならしめ、朝野の識者をして適當なる救濟の途なきかを顧はしむるに至れり。米價調節の問題が蠶糸業救濟、國產奬勵等の問題と共に朝野人士の間に提唱せられたるは正に之が爲にして、最近遂に勅令に依り國費を以て米價調節を目

的とする米穀賣買の行爲を爲すの權限を財務官吏に委する所謂米價調節策の實施を觀るに至れるも亦正に其結果なり。即ち現時の所謂米價調節策は二年前の該策の如く穀價の昂騰を制せんとするものに非ずして寧ろ反對に其下落を制止し或る程度まで之を騰貴せしめんとするものに屬し、其騰貴に依りて農村の購買力を增進せしめ、依りて以て不景氣に沈淪せる目下の經濟界に幾分の景氣を添へしめんとするものに外ならざるなり。

勿論米價の調節に就ては當初よりして世論頗る區々たるものあり。政府をして此調節の任に當らしめんとする議論の一度世間に唱へられ、議院の議場に建策せらるゝや、政府に斯る調節の能力ありや否やに關して既に議論の一致せざるものあり。又多少政府の此能力を認むる者の中にも斯る經濟的權力を政府當路者に委するの危險に對して懸念する者あり。而して等しく政府の調節能力と其措置の公正とを信ずる官僚萬能論者の間にも調節の爲に施す可き方法如何に就ては議論必ずしも一致せざりしなり。否な舊臘末第三十五議會解散に先だち朝野兩黨より此調節に關する建議案提唱されたりしに拘らず確然たる調節手段の提示せられざりしより觀れば、判然一定せる具體的の調節方法は實際未だ案出せらるゝに至らず、一部世論の要求する所は唯、政府をして速に米價調節の爲に一定の方法を確定せしめ之を實行せしめんとする漫然たる希望に外ならざりしなり。然れば政府が世間の此漫然たる希望を容れ、所謂愼重なる調査を重ねて一定の確然たる方案を立て、此に之を發布するや、其方案の當否に關する議論は頗る深酷を加へ來れり。曩に政府をして直接に米價調節の爲に當らしむるの不當不利を鳴らせる論者は勿論、政府の調節實行を是認せる幾多の識者論客中にも此具體的方案を見るに及んでは現政府の施設に對する其態度を一變する者少なからざるに至れり。由來名案なきが爲に古來遂に其望を達するを得ざりし斯る漠然たる希望に對し、漫然一個の定案を立てゝ之に應せんとするに當りては、遂に適當且つ有效なる定案を得ること難く、從つて其實行に際して豫想外の反對と障害とに遭遇するも亦自然の成行なり。現政府の米價調節策が世間一般の物議を招き、一般に現政府に好意を表し來れる言論界の論調すら此問題に關しては殆んど悉く政府の措置を難ずるに至れるも亦決して怪むを要せざるなり。

さはれ兎に角、現政府の所謂米價調節策は今や確定公布せられ、近き將來に於て將に實行せられんとす。而して該政策の效能に就ては政府當路者及び御用新聞紙よりして既に充分の說明を聞き、世間無數の學者論客の之に對する批評も亦日々の新聞雜誌に依りて之を聞けり。從つて此政策の效果如何に就ては吾人は復た更に多く言ふを要せず。吾人は唯、世間多數の論者と共に斯策の頗る拙策にして其目的とする效果の實際上擧がることなかるべきを信じ、吾人の所信の當否如何は一に之を後日の實際に徵することゝせんと欲す。蓋し案其物は必然實施せらるべく、從つて其效果も遠からずして千言萬語よりも有力なる事實の上に現はれ來るべければなり。殊に此來價調節策を以て一部世論の認むるが如く單に目下の不景氣を引立てんとする一時的の方便策、若しくは總選擧を眼前に控へたる今日に於て政府當路者が選擧民の大多數を占むる農民の歡心を求め、政府與黨の議員撰出に便せんとする一種の政略的手段に外ならず、米價の上に及ぼす實際の效果の如き復た多く問ふ所に非ずとせば、吾人は一言此に當路者の無責任を難ずるの外、復た言ふ可き所あるなし。

然れども政府這回の此調節案の裏面には由來久しく我が社會各方面の人心に浸潤し、常に世論を導きて動もすれば偏頗なる農業政策上の施設を時の當路者に強ゆるの原因と爲れる農政上の一種の根本思想の伏在するものあり。食料品供給上一國の獨立を必要とするの見地よりして農業を維持振張するの必要を認め、此必要に應ずるが爲に米作を有利ならしめざる可からずと爲すは即ち是なり。曰く、我國の人口は日々益々增加し、動もすれば食物の供給に不足を感せんとす。殊に最近十數年來米穀の輸入は常に輸出に超過するの風ありて、國家の爲め頗る寒心す可き次第なり。然れば從來の農業を維持するは勿論、更に大に之を促進して、食料品の供給をば增加せる人口の需要に應ずるを得せしむるは朝野の協力盡粹す可き目下の緊要事と云はざる可らず。然るに此食料品の供給を增加するの途は穀價を相當の高度に維持し、米穀耕作をして有利の事業たらしむるの外ある可らず。米價にして甚だしく下落せんか、其耕作は比較的不利益と爲り、農民は滔々相率ひて他の有利なる產業に走る可く、農村は衰微して農業は頽癈し穀物の供給從つて又減少せざるを得ざる可しと。斯くて穀物殊に米穀生產の盛衰と農業及び農村の盛衰と

を同一視し、農村振興の見地よりして米價維持の必要を認むるは我が朝野多數人士の頭腦裡に通有なる一種の觀念なり。往年の政府をして效果頗る疑はしき彼の穀物關稅制度を實施せしめたるも、舊臘一部の議員をして米價調節の必要を提唱せしめたるも、將た又現政府をして遂に這回の調節法の實施に着手するに至らしめたるも何れも等しく此觀念なり。而して政府の施設は其效果なきの事實明瞭となるに至るか若しくは其必要既に去れるの日に至らば必然廢棄せらるゝに至る可きも、此根本の觀念根本の思想に至りては容易に人心を去らざる可し。政府這回の調節策に關しては反對の議論頗る多きも、此根本思想に對しては反對するもの意外に少かる可し。此思想の我か朝野人士の腦裡に浸潤するや實に意想外に廣く且つ深きものあり。現政府の米價調節策にして一部人士の揣摩するが如く農村一般の人氣に迎合するの素志に出たるものとせば、そは畢竟此思想の廣く且つ深く行亘れるありしが故に外ならざるなり。然れば此思想にして依然として一般人心の腦裡に存する以上、縱令ひ現政府は倒るゝも、現政府の米價調節案は失敗に歸するも、他の之と同樣なる幾多の方策は案出せられ、政府の更替米價の大下落發生する毎に世論及び議會の言議に上るは勿論時に往々實施せられて、經濟界に多少の變潮を惹起するを免れざる可し。是れ吾人の特に此に一言する所あらんとする所以なり。

今熟ら此思想を解析精査するに、吾人の疑を挾まざるを得ざる二個の信念の其中に包含せらるゝものあり。米價は政府其他の人爲的施設に依りて常に之を一定の程度以上に維持すること難からずと爲せるは即ち其一にして、他の一は農業の利害延ひては農村の盛衰一に米作の盛衰興亡に在りと爲すの念慮是なり。敢て問ふ、此等二個の信念は果して我か目下の實際に適合し、農政否な一般經濟政策上の方針を決定するの根本觀念として大過なきを得るものなるや否や。

（三）

由來物價は一般に需要と供給の關係に依りて決定せらるゝものなりと雖も、需要及び供給の增減が物價の上に及ぼす影響は貨物の種類如何に依りて種々の相違あるものなり。即ち貨物に依りては需要又は供給に多少の增減あるも其價格には著しき變動を見ざるものあると共に其一方には需要又は供給の些少の變動の

爲に多大の價格變動を生するものも、少なからず。而して穀物其他必須の日用品にして他に之に代はり得可き代用品の存せざる貨物は一般に後者に屬し、需要供給の關係の上に於ける些少の變動は價格の上に多大の高低を惹起するの常なり。蓋し此等の貨物は「マーシャル」の所謂需要の彈力少なき貨物、換言すれば當該社會に於ける其需要は常に略、一定して動くことなく、從つて其價格に多少の高下あるも其需要は增減すること頗る少なき性質の物なるが故に、一朝其供給に僅少の不足を見る時は價格は非常なる騰貴を見るに非ざれば需要をして其供給と平均するの程度に減少せしむるを得ざる可く、之に反して供給に少しく餘剩を生ぜる場合には價格著しく下落するに非ざれば需要の增加を誘起して其供給と平均するに至らしむるを得ざる可し。換言すれば供給の上に生ぜる僅少の變動は價格の大變動を惹起さずんば止まざる可きなり。而して我國に於ける米穀の如きは正に此種貨物の最たるものなり。

果して然らば我が米價をして平均を保たしむるの途は常に米穀の供給を均一にし、常に需要と平衡を保ちて年々歲々過不足なからしむるの外なく、米價をして一定の標準價格以下に下ることなからしむるの途、即ち所謂米價維持の方法は米穀の供給をして決して需要に對する一定の量以上に出づることなからしむるの外ある可らず。去る一月末に政府の公にせる所謂米價調節法の如き又畢竟政府の買收貯藏に依りて以て供給を減縮し、市場の供給をして需要に適應せしめんとするものに外ならざるなり。敢て問ふ、我が米穀供給の場合に於て斯る供給の調節果して實際に可能なるや否や。政府の實力果して常に此目的を達するに足るものあるや否や。

國內に於ける供給に就て之を觀れば穀物の供給は國內に於ける生產と海外よりする輸入と待たざる可らず。然るに一國內に於ける穀物の生產は爾餘の農產物と等しく天候の影響に依りて年々多少の變動あるを免れず。如何に人力の限りを盡すと雖も、年の豐凶に基因する收穫の增減は全然之を調節均一にするの途あるなし。從つて一國一社會の供給の調節は其途を生產の調節に求むるを得ず。若し强ひて之を求めば外國に對する其輸出入の調節に待たざる可らざるなり。然るに此輸出入の調節に就て之を觀れば大略左の三種の場合の區別す可きものあり。

第一、穀物輸入國の場合、例令ば英獨兩國の如く國內に於ける穀物の供給の一部又は大部分を年々歲々外國の輸入に仰ぐを常とし、如何なる豐年と雖も、國內消費額の一大部分を輸入せざるを得ざる邦國に在りては關稅政策に依りて內國の穀價を一定の程度以上に維持すること決して不可能事に非ず。勿論斯る邦國も世界の穀價を左右するは到底不可能事なる可く、從つて世界的市價の大下落に際しては其國內の穀價亦下落せざるを得ざる可しと雖も、然かも一定の程度以上に外國市價の下落せる場合に適度の關稅引上を爲すの途を設くるに於ては、國內穀價の維持は全く不可能事に非ざる可し。

第二、穀物の輸出入大略平均せる邦國の場合、例令ば我國の如く年々歲々多少の輸入を見るも其一方には多少の輸出を見るを常とし、輸出入額共に國內の消費額に比して甚だ多からず、大體に於て所謂自給自足、豐年には多少の供給餘剩を見ると共に凶年には多少の不足を感ずると云ふが如き邦國に於ては、供給の調節は甚だ困難なり。蓋し此場合に於ては穀物關稅政策の運用は供給不足の凶年に際し穀價の暴騰を抑制せんとするに際しては多少の效果ある可しと雖も、秋收豐にして穀價下落するに際しては何等の效果を及ぼすを得ざる可ければ、なり。幸にして當該穀物の販路充分に外國に存する場合に於ては其下落は著しく世界市場の市價以下に下ることなかる可しと雖も、其穀物が海外の同種穀物と大に品質を異にし且つ其內國の市價爲に著しく外國同種商品の上に在ること我が米穀の如き場合に於ては豐年供給の潤澤を極むるに際して著しく下落すること到底免る可らざるなり。

第三、穀物輸出國の場合、例令ば米露、又は「アルゼンチン」等の如く國內の穀產額常に其消費量を超過し、年々歲々其產穀の一大部分を外國に輸出するを常とする邦國に於ては、國內に於ける穀物の供給は一に輸出の能否に依りて支配せらるゝが故に、其市價も常に世界市場の市價と共に上下せざるを得ず。而して世界市場を人爲的に左右するか如きは如何に有力なる國家と雖も到底爲し得る所に非ざるが故に、斯る邦國に在りては穀價に對する國家的調節殊に價格維持を目的とせる其調節は徹頭徹尾不可能事たらざるを得ざる可し。

要するに國家の穀物供給調節策は輸入の場合に於ては可能にして且つ其實行

比較的に容易なるも、輸出を必要とする場合に於ては事實殆んど全く不可能事たり。從つて前述第二の場合に屬する我國の米穀供給上に於ては今年の如く豐作に基づける供給潤澤市價暴落を防ぎ其價格を維持せんが爲に政府の施し得可き適當なる直接の供給制限策は殆ど全く缺如せるなり。

（三）

然れど斯の如く大體上內國穀物の需要と供給の平均せる邦國に於ては、前後數年間を通覽すれば、凶年の後には豐年あり、豐年の後には凶作ありて供給の過不足相半するが故に、豐作の歲に於ては農家又は商人の手許に相當の貯藏米を藏し、凶作の年に之を提供販賣するの途を講ずるに於ては需要と供給は常に平均して市價能く其平均を保つこと難きに非ず。而して斯の如く時の前後に於ける需要と供給の不權衡を調節平均し、供給を需要に適合せしむるは商業の職分に屬し、商人が廉なる時に買入れ之を貯藏して高價の時を待ち之を賣捌くは即ち此職分を果たす所以に外ならず、農家の思慮ある者が豐年に比較的多額の貯藏米を藏しつゝ凶歲に當りて之を賣却するを心掛くるか如きも亦需要供給を調節する此商業行爲の一種に外ならず。現に我が米穀の市場に於ても商業の此妙用に依りて豐凶各年間の米價は事實上大に調節されつゝあるなり。然りと雖も年の豐凶秋收の增減は容易に豫知するを許さゞるものなるが故に、多大の仕入を爲して米價騰貴の機を待てる商人も、多額の持越米を擁して市況の恢復を期待せる農業家も時に事志と違ふことなきに非ず。殊に豫想外なる豐作の二年三年繼續せる如き場合に於ては縱令ひ異日凶作の二三年繼續するある可きを確信するも、或は金利の關係、若しくは資金の必要、其他の種々なる事情境遇の爲に、遂に其持米を賣放たざるを得ざるに至ること決して少なからざるなり。其結果、此商業の價格調節作用も時に其效用を失して市價は爲に大なる暴落を致すことなきに非ず。殊に金融市場逼迫し來り資金の融通圓滑を缺くに至れる場合に斯る現象を見ること多し。然れば確實なる商業家の爲に常に充分なる信用利用の途を開き、農村に於ける金融を圓滑にする等適當の施設に依りて商業の此調節作用を容易にするの途を講ずるは、可及的米價の平均を維持せしむる上に多大の效果ある可しと雖も、然れども、單に之に依りて或は年の豐凶に基づける價格の變動を全然根絕せんとし、將た或は少なくとも價

格を常に一定點以上に維持せんとするが如きは到底望み得可きことにあらず。年の豐凶に伴ふて米穀の供給に多少の增減あり、其增減に應じて價格に多少の高低を生じ、時に其勢の馳する所一時の間非常の高價又は低價を生ずることあるは、交易經濟の今日決して免るゝを得ざる自然の數なり。

さはれ這回政府の取れる調節案を觀れば、政府當路者は恰も商業の此價格調節作用に着眼し、政府自ら此商業に從事して民間商人並に農業家の缺を補ひ、之に代りて其調節の任に當らんとするものなり。一定の相場以下の時に實米買收を爲し一定の相場以上に至らば之を賣却す可しと云ふ當路者の言明は正に其眞意を示せるものなる可しと雖も、今日の複雜なる交易場裡に於て、形式的執務をのみ是れ事とせる官僚者流が能く商機を補促し臨機應變の處置を施して大過なきを得るの商業的才能を發揮し得るや否や、既に頗る疑なきを得ず。動もすれば巧慧なる商人の乘ずる所となりて徒に政治行政上の腐敗を釀すの原因となることなきや否やは、更に大なる疑問たると同時に、財政上より觀るも實際に其效果を擧げ得るや否や又大疑問たらざるを得ず。現に最近數年來の統計を觀れば我國の米作收穫は年額四千七八百萬石より五千四五百萬石の間に在りて、豐年と凶年の差は實に七八百萬石の多きに達するものあり。今年々の消費額を其平均五千一二百萬石とすれば、豐年より凶年に持越す可き米穀は時に三四百萬石に上るものと看做さゞる可らず。此持越は當今に於ては幾多の商人と農家の手に依りて行はれ、而して此等人士は豐凶兩年の間價格の相違甚だしきに從ひ其利益益、大なる可きが故に、價格の低落愈、甚だしきに從ひ進んで持越を敢てする者益、多きに至るものなれども、今若し、政府にして豫め其最低價格を一定し、其以下の價格に至らば持越米を全部引受くるの態度を取るに於ては、此持越米の全部は時に政府に提供せらるゝなきを保せざる可し。果して然らば政府は獨力能く之を引受け得可きや否や。縱令ひ一個年は之を引受け得可しとするも二年三年引續きて之を引受け得るの力ありや否や。然かも之を引受くるの力なき限り十全なる米價調節否な米價維持の大目的は遂に達せらるゝを得ざる可し、嘗に其目的の達せられざるのみならず。其施設の中絶は米價の急激なる變動を喚起し、却つて經濟界を擾亂するに至る可し。決して漫然着手す可きものに非ざるなり。

（四）

論じて此に至り吾人は一定の價格を標準として米價を調節せんとする一切の案に對し、更に一種の疑念を覺えざるを得ざるものあり。其標準とせる所謂標準價格が果して適當に定められたるものなるや否やの一事即ち是なり。經濟學の一般に教ふる所に據れば凡そ貨物には正常の價格なるものあり、市價其以上に在れば供給は早晩增加するに至る可く、又市價永く其以下に在れば供給は久しからずして減退するに至る可しと。米價の場合又此範圍外に出づることなし。土地の生產物には收穫遞減の法則ありと雖も、日進月歩の農業技術の發達は時に此法則の效果を抹殺して餘あること少なからず。米價の騰貴に從ひ其收穫の增加を見るに至る可きや必せり。我國最近の米收穫の急速なる進歩の如き正に其一例なり、果して然らば這回政府が調節の標準とせる十五六圓の穀價は此最近の進歩を致したる米作家の認めて以て正常價格と爲すの點以上なりや否や。若し此標準價格が眞の正常價格以上に在りとせば我米作は爾今益、增加發達す可く、而して其發達の結果は遂に年々歳々米穀供給の餘剩を見るに至り、政府は到底其餘剩を購買貯藏するを得ざるに至るなきを保せざる可し。若し又之と反對に此公定の標準價格が正常價格以下なりとせば穀價は永く其以下に止まることなく、久しからずして供給の減少に依り相當の程度に騰貴し、調節論者の杞憂は直に一掃さるゝに至る可し。何れにもせよ、昨年末來の暴落は一昨年の暴騰と共に米價が其正常に復歸するに至る一時的の現象にして決して永續す可き性質のものに非ず。然るに正常價格の何邊に在るやを正確に研めずして漫に一時的の此急激なる變潮に驚き輕卒に其市價を一定せんとするが如きは交易的經濟場裡の平穩なる自然的經過を妨害し、其平潮に歸するを妨げて永く經濟界を攪亂するの外、何等の效果なかる可きなり。

世人或は曰はん。米價の暴落は我米作の將來を危ふするものあるを如何せん、其救濟一日も忽にす可らずと。然れど吾人を以て之を觀れば是れ誤れるの甚だしきものなり。此下落の爲に米作家の一部其業を轉じ若しくは其耕作の一部分を他に轉せば、之が爲に生ずる米穀供給の僅少の減退は前述の如き需要の彈力性少なき貨物の常として直に多大の價格騰貴を惹起す可く、決して所謂米作の衰頽を致すほどの甚だしきに至ることなくして米作家の經濟的境遇は恢復す可し。又縱令ひ

一年乃至二年間米價異常の下落を爲したりと。て斯る短時日の間に米作家の大部分が悉く他業に轉じ又は再起す可らざるの急厄に陷る程、我農民は然かく甚だしく輕卒にも非ず、無能薄弱なるものにも非ざるなり。加之、單に一時の間米價が正常價格以下に下落せるの故を以て農民救濟せざる可らずとなさば、不景氣の爲に商品の價格生産費以下に降り、商工業者多數窮狀に陷れる場合に於ては吾人は同一の理由よりして商工業者一般の救濟を呼ばざるを得ざる可し。果して然らば昨年以來の如き一般の不景氣に際しては政府は全國の生産業全部の救濟に策を施さゞるを得ず。國民全般悉く救濟の要ありとせば之を基礎とせる國家は何れの處に其資を求めて之を施すを得ん。

要するに米穀其他何れの貨物にせよ、供給の潤澤なる爲に生ぜる市價の下落は其供給の相當の程度に減ずるまでは之を阻止す可きものに非ず。價格の下落は供給をして需要に適合せしめんとする社會の要求の反照なり。供給を減ぜずして獨り其價格を維持せんとするは、それ自身に於て既に矛盾の要求なり。此自明の眞理は識者の一般に認識する所なるに拘らず、然かも問題の一度米穀に關するに至るや朝野相當の識者等しく此眞理を忘却して一方に米穀供給の多々益々豐潤ならんことを希ひ、只管米作の鼓吹奬勵を希望すると同時に其價格の常に相當の程度以上に在らんことを希望するの狀あり。一國食料品供給上の獨立と云ふ見地よりして米穀收穫の益々大ならんことを希ふは正に自然の人情と云ふ可く、而して食料品供給增進の爲に米作の發達を望み、米作促進の爲に米價の高からんことを希望するも亦經濟上當然の要求なれども、然かも此要求は單に供給の便宜上より觀たる偏頗の見に過ぎず、需要の法則は此要求を容るゝの餘地なきを如何せん。世間多數の人士は實に此愛國の至情よりして、獨り米穀に關し供給を多くして然かも價格を高からしめんとする矛盾の希望に驅られつゝあるの狀あり。而して現今の所謂米價調節案なるものも亦此矛盾の希望に出でたる一結果に外ならず。吾人は此見地よりして其根本を誤れる此種農政上の施設の徒に國費濫費、經濟界攪亂の惡結果の外、何等の利益を齎すなきを惟ひ國民經濟の前途の爲に輕卒なる經濟政策の危險なるを深く感ぜざるを得ざるなり。

（五）

然るに世間又說を爲す者あり。曰く米價の下落は農家の窮厄を來たし、農家の窮厄は我人口の大部分を包含せる農村の衰微を來たすの虞あり。其下落は策の及ぶ限りを盡して之を豫防せざる可らずと。而して二三有力なる農政學者の如きは其蒐集せる幾多の統計材料に依り此俗說に裏書して曰く我國の米穀の生產費は今日の農業狀態に於ては十六七圓を要す。故に穀價一石約十七圓以上に在るに非ざれば、我國の農民は永く存立するを得ず、農村從つて衰微せざるを得ず。農村の維持發達を惟はゞ米價をして常に此生產費以上に在らしめざる可らずと。然るに米穀の價格は其供給にして今日の趨勢を持續する以上、年の豐凶に依り時に多少の騰貴あると共に時に又比較的大なる下落を見ることあるを免れず、而して此下落は其騰貴と異なりて人爲的に之を抑制すること前述の如く不可能なるものありとせば、我農村は益、窮厄困憊に陷り遂に衰癈するに至らざるを得ざる可きか。蓋し若し論者の言を眞なりとせば我農民は豐年には米價の下落に依りて困難に陷る可く凶歲に於ては收穫の減少に依りて困難に陷る可く、何れにしても困難を免るゝを得ざる可ければなり。

實に米穀は我農產物の最重要なるものなり。其下落は縱令ひ一時的にもせよ農業家の一大部分に取りて大苦痛たること勿論なる可し。然りと雖も其下落が實際に生產費以下即ち正常價格以下の低位に至るは單に一時的の現象に過ぎざることを前述の如きものなる以上、此一時的苦痛の爲に農村が永く衰微に陷るに至る可しとは吾人到底之を信ずるを得ず。吾人を以て之を觀るに斯る農村悲觀論者は畢竟我が農村經濟を以て純然たる米作經濟と爲し、米作の一時的不利益より生ずる結果を餘りに誇大視せる杞憂家に外ならざるなり。

勿論米穀の收穫は我農民大多數の收入の一大部分を占む。然りと雖も農家の收入には米穀收穫以外に收入の淵源決して少なからざるなり。我農民は總計二百九十餘萬町歩の水田と共に二百七十餘萬町歩の畑地と之に幾倍する所謂原野を耕作利用しつゝあるなり。水田悉く米作地に非ず、蓮草蓮根其他幾多の作物に利用せらるゝと共に、畑地も又陸稻の耕作に供せられつゝありと雖も、兎に角農業用地の少なくも大半は米作以外の用に供せられつゝあるなり。而して米穀以外の農產物中にも單に輸出のみにて其價格實に米穀全收穫の約四分の一を占むる生糸の原

料も含まるゝなり。地方に依りては同一面積の收益遙に米作に勝り時に米作に幾倍する果樹、烟草野菜等も含まるゝなり。凡そ此等の農産物は日本全國の上より觀れば各種類それ〴〵の耕地面積遙に米田面積に劣れる丈け收穫價格亦少なしと雖も、各地方各村それ〴〵に就て之を觀れば農家の經濟に取りて重要なること決して米穀の收穫に劣らず、此等畑作物の全部と原野生産物とを合計すれば農家の繁榮に取りて重要なること遙に米穀の上に在るの地方決して少なからざるなり。精確なる生産統計の以て準據す可きものなきが故に、計數的に之を立證することは難しと雖も、吾人の平素目擊する所を以て之を察すれば此等雜種農産物の全收穫は全國の上より觀るも遙に米穀の上に在るに非ざるかを惟はしむるものあり。加ふるに我が農民は各縣大多數の地方に於ては多少の副業的生産に從事せざるなし。蚕繰生糸、藺莚製造、綯繩製莚等所謂普通の農家兼業は勿論、地方に依りては各種絹綿布の力織、沿海漁業、農産物行商、各種の雇傭勞働等其類實に枚擧に遑あらず。而して此等の副業的職業は又以て我が農村經濟の重要なる收入の源泉たり。我が農民は決して米作のみに衣食するものに非ざるなり。

然るに我農業の此狀態に對して米作奬勵論者は説を爲して曰く、農民が斯の如く副業的生産殊に農業以外の副業的生産に從事するは畢竟其主業たる米作の利益少なく生計困難なるに基づく。今や人口增加し、動もすれば國内の食料品供不足を告げんとするの虞れあるに際し、勞力に餘裕ある農民を斯る餘業に從事せしむるは一國經濟上の一大不利益なり。此餘力を轉じて少なくも國内供給に充分なる米穀の收穫を得るに至るまで米作を翼進するは刻下の喫緊必要事なりと。然れど吾人を以て之を觀れば農業は斯の如く一種の耕作にのみ其勞力を投入し得るものに非ず。凡ての作物にはそれ〴〵其耕作に繁忙なる季節と閑散なる季節あり。殊に穀物の耕作に於て然りとす。故に其耕作一二種に偏するに於ては非常に繁多の季節あると共に其餘大部分の季節は閑散に歸し、剩餘勞力の用途なきに苦まざるを得ず。然れば農家經濟の方策としては可及的耕作物の種類を數種にし、一年間常に有利に其勞力を使用し得るに勤むると共に、然かも尚ほ閑時日を生ずる季節に於ては各地方各人適宜の副業を選み、之に從事して可及的其勞力を徒費せざるに心掛くるを必要とす。現に當今に於ても農村の比較的最も豐なる地方は斯る經營

法に依り多種類の農產物を產出しつゝあるの地方並に幾多の副業を營みつゝあるの地方にして、比較的貧弱なるは純然たる米作地方其他生產物の種類少なき地方たるなり。此點より觀れば我國農業の如上の狀態は正に農村經濟の理法に合せるものにして、畢竟經濟上の必要より自然的に生じたる生產關係と云ふ可し。而して斯る經濟法が各人の經濟上最も有利なるものなる以上、强ひて其關係を變更して比較的收益少なき米作を增加せしむるは、徒に米價を下落せしめ、農家の收入を減せしむるに過ぎず。國民經濟上亦決して有利の策に非ざるなり。

要するに農業の經營は其性質上生產物の種類を一二種に限るを許さゞるものなり。隨時多數の勞働者を雇使し得る米國流の資本的大經營に係る大農業は兎角、我國の如く集約的なる經營に在りては自作農たると小作農たるとに論なく等しく斯る經營は不利益なり、否な農家經濟上殆んど全く不可能事たり、種々なる生產物の生產兼營は農家の必要事たるなり。從つて此點より觀れば我が農產物は何れも「マーシャル」教授の所謂結合生產物（Joint Products）なり、數者互に相結合して同時に生產さるゝ生產物なり。故に生產者より觀れば其一種の價格低落するあるも、他の結合生產物にして高價なる以上、生產者は之に苦むことなく、從つて其供給亦容易に減退することなかる可し。吾人が曩に我が農民は縱令ひ一二年間米價の下落することあるも米穀の生產を衰頹せしむる程薄弱のものに非ずと斷言せるは蓋し斯る事情あるが故なり。現に昨年末以來の農村の不景氣に就て之を觀るも其原因は決して米價の下落のみに非ず。或る地方に於ては米價の下落よりも寧ろ生糸の下落に伴へる蠶業收益の減少、海外交通の不安に伴へる輸出農產物の不捌に苦み、又或る地方に於ては煙草專賣局の突然なる煙草買上期限延期の爲に生ぜる現金收入杜絕に惱みたるの狀あり。明治四十二三年の夏、米價の下落は遙に今日以上に在りしに拘らず、當時に於ける農村の不景氣の嘆聲が今日の如く甚だしからざりしは、畢竟當時に於ける他の農產物の價格が今日の戰時相場の如く同時に下落することなかりしが故なり。

此等の事情より觀れば單に米作の消長、米價の高低の上のみよりして農民生活の難易、農村經濟の消長を斷ずるの愚なること以て知る可し。縱令ひ米價下落の爲に農民中米作地の一部を減じて之を他作物の耕作に轉用し、若しくは米作施肥の

一部を廢止して其資本を他に轉用する者を生じ、全國の米產額爲に幾十百萬石を減ずるに至ることありとするも、其一方に於て幾十百萬斤の生糸幾萬箱の製茶、其他の農產物の之に代りて產出さるゝあらば、之が爲に國內の生產は決して減少せず、農民の生活は困難に陷らず、農村は衰微せざる可きなり、況んや僅々二三ヶ月乃至一年に過ぎざる短期の米價下落の故を以て斯る生產の推移を想像し得可らざるに於てをや。現に去る明治四十二三年の米價大下落すら毫も其後に於ける米作の進運を妨げざりしの一事又以て之を知る可きなり。今年農村の不景氣の爲に施肥其他農事經營に支障を生せるの徵ありとせば、そは米價の下落以外金融逼迫、爾餘農產物の下落等寧ろ他の事情の之が大なる原因を爲せるに基づかずんばあらず。然るに獨り之を米價下落に歸し、其調節のみに依りて農村の振興を畫せんとす。吾人は其の餘りに偏見なるに驚かざるを得ざるなり。

加ふるに農產物の所謂結合的生產物なること前述の如くなる以上、其生產費なるものも、一部學者の屢〻試みたる如く米作その物のみの經費計算に依りて算定し得可きものに非ず。爾餘の相關せる幾多の農產物並に副業的生產物と相關聯して初て算定し得可きものに屬せり。此に於てか吾人は更に前に揭げたる農政學者の所謂米穀生產費なるものに疑を挾まざるを得ざると共に、漫然米價の適度を十五圓乃至十六圓と推定して之を調節せんとせる當局者の無謀と大膽とに驚かざるを得ず。吾人は實に此見地より從來公にせられたる朝野幾多の農政研究家の調査に依る農產物の生產費調査及び農家經濟の調査の計數、並に之を論據とせる農村狀態の說明及び議論に對して徹頭徹尾疑を挾み、且つ又之を基礎とせる農政上の施設畫策に對して懸念を禁ずる能はざるなり。

米は實に我農產物の要位を占む。農政施設上之を重要視するは宜なりと雖も、然かも農產物の全部にも非ず、又其過半を占むると云ふ程の大部分にも非ず。爾餘の農產物及び農家の副業的產物と相待ちて初て我農民の生活の基礎と爲り、農村消長の要素と爲るものなり。單に農產物の一部分に過ぎざる此米穀の收穫、價格、生產費等のみを觀て農家の經濟を斷じ農政の方針を定めば意外の危險と失敗を免れざる可し。我が從來の農政上の施設中、此謬見の爲に幾多の失敗に陷り、實際に農民を苦めつゝあるもの少なからざるを思ひ、此に復た此謬見よりして米價調節策な

る疑はしき政策の實施せらるゝに遇ひ、吾人は政策の當局者及び農政研究者一般の一層眼界を廣めて農產物全般否な農家の生產物全般の上より農民及び農村の經濟を斷じ、之に對する政策を立案實施せんことを望むや切なり。學者及び政策當局者にして、其研究する所、施設する所一に主として小作料米に衣食する中流以上の地主の經濟、地主の利益のみに在りとせば、吾人復た何をか曰はん。其研究施設實に農民の經濟、農村の利益促進、否な社會全般の利益に在りとせば、從來の學者及び當路者の態度は餘りに偏狹に過ぎたりと云はざるを得ざる可し。（大正四年二月稿）

廣告主へ御注文の節は三田學會雜誌廣告に依る旨御附記を望む

THE YOUNG GRADUATE
must be Photographed.

It's time to have That Long Promised Portrait taken.

Such Portraits are a pleasure for us to make and for you to have made. drop in and have a chat—you will hardly know you are being Photographed. The result is a natural, intimate likeness.

電話新橋七二七番
新橋江木寫眞店
（京橋區土橋側）

Only for KEIO.
此券御持參の方に限り二割引